

第16回こども急性疾患学寄付講座(神戸市)公開講座
2017年7月1日(土) 神戸こども初期急病センター なぎさホール
「知っておきたい!こどもの症状と検査」

いつ受診したらいいの?
~〇〇したらすぐ来てね~



神戸大学大学院医学研究科 小児科学分野
こども急性疾患学部門
特命助教 富岡 和美

今日の内容

①はじめに

②それぞれの症状について

- 発熱
- 普段と違う息
- 嘔吐、腹痛、下痢
- けいれん、意識障害



はじめに

熱が出る、ぜいぜいした呼吸になる、吐いてしまうなど、お子さんが突然体調を崩す、またそのような状態が続く事があると思います。

このような時、受診のタイミングに迷うことがあるかもしれません。

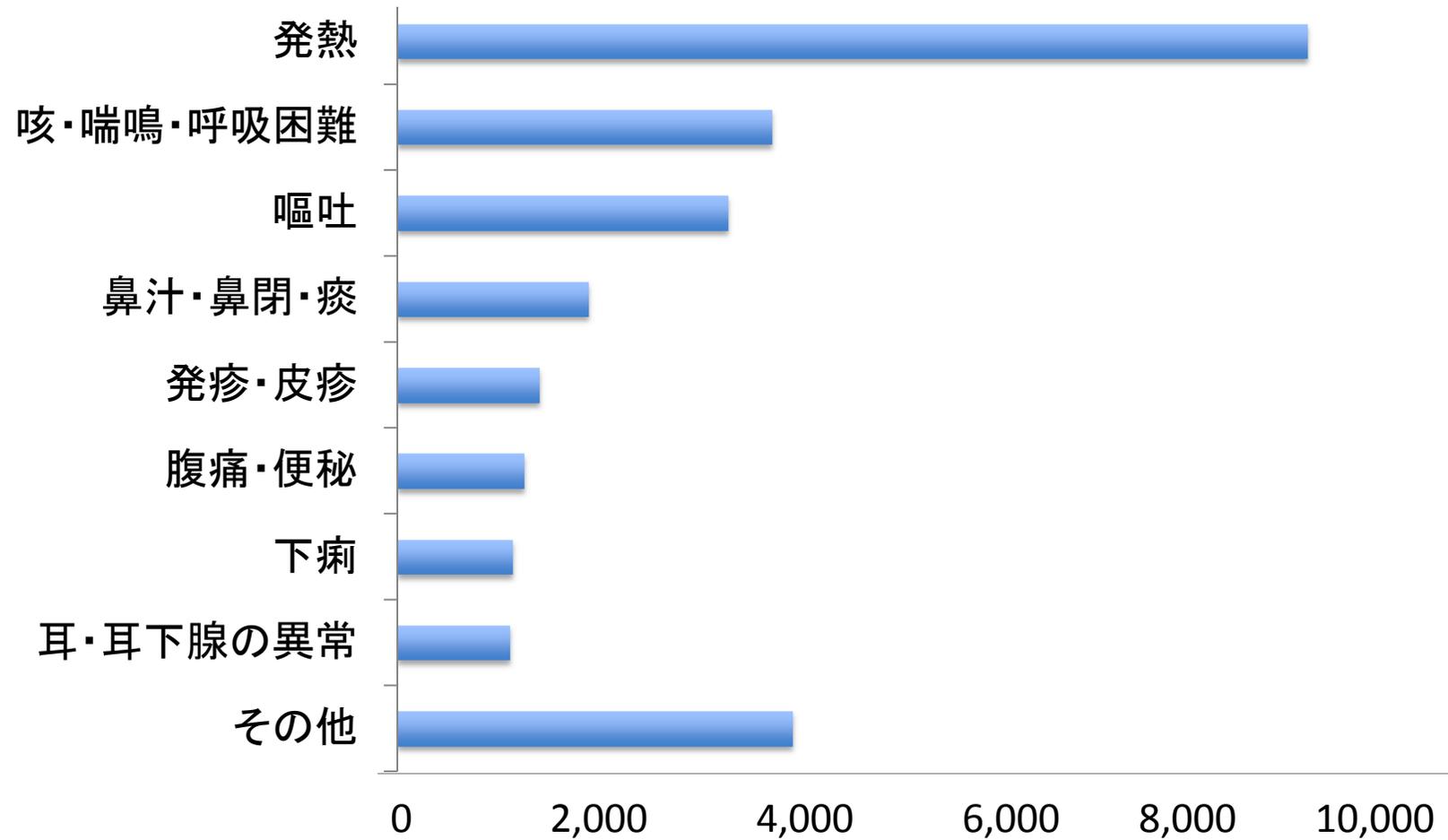


はじめに

本日は、こどもでよく目にする症状が出た場合の、受診のタイミングについてお話ししたいと思います。

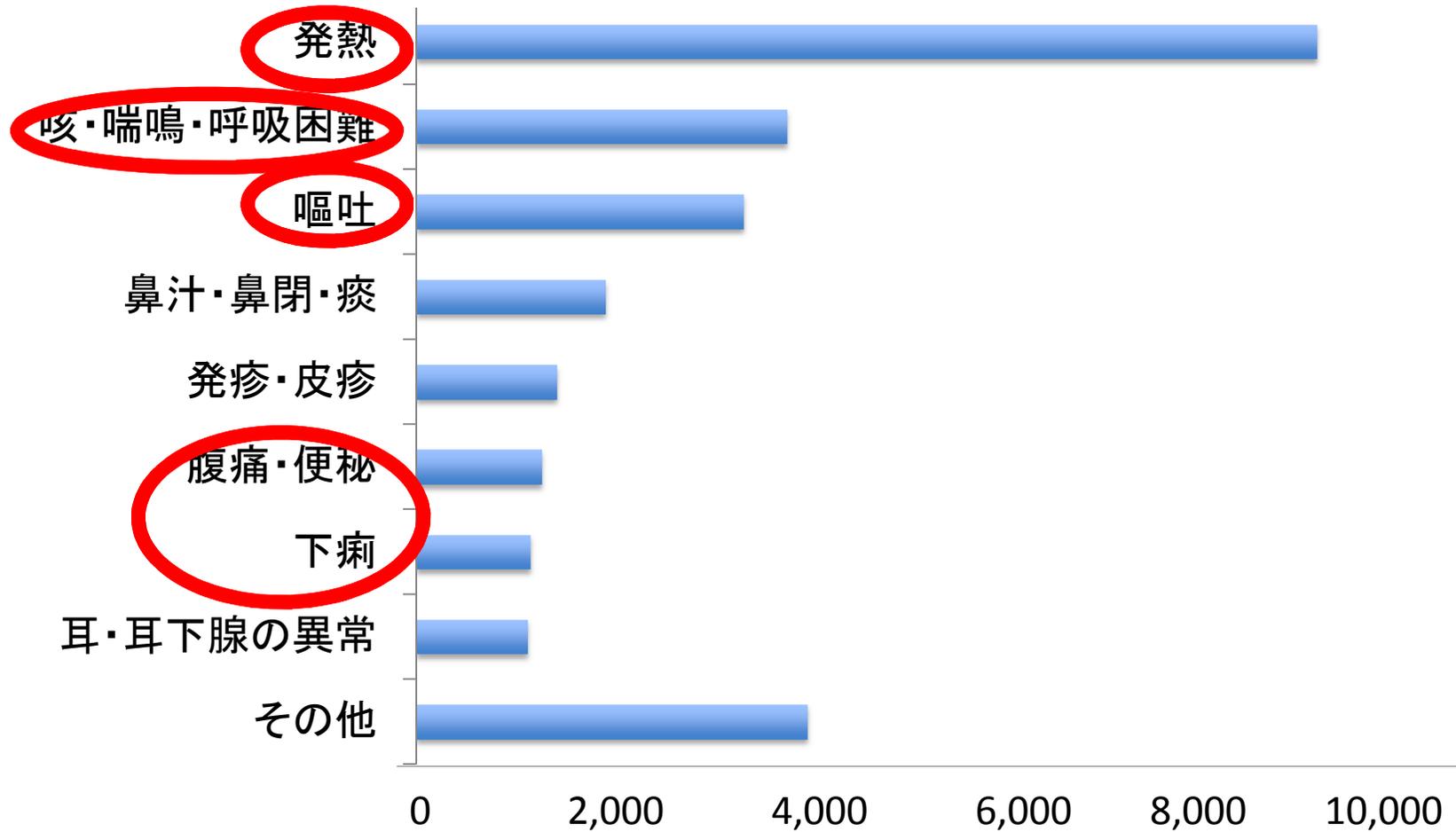


電話相談の内容



神戸こども初期急病センター 電話相談件数(H28年度)

電話相談の内容



けいれん・意識障害

神戸こども初期急病センター 電話相談件数(H28年度)

発熱

乳幼児の急性発熱の原因

感染症(かぜ、肺炎など)

川崎病

薬剤アレルギー

異常体温を示す疾患(熱射病、悪性高熱など)

中枢性発熱

自己免疫性疾患

自己炎症性疾患

悪性腫瘍

注意が必要な発熱

- ①重症細菌感染症
- ②全身の状態が悪い発熱
- ③長引く発熱

注意が必要な発熱

①重症細菌感染症

②全身の状態が悪い発熱

③長引く発熱

感染症

- 80～90%がウイルス感染症、「かぜ」
抗茵薬は無効
- 3～36ヶ月の発熱の30%は熱源不明

乳幼児の重症細菌感染症

- 菌血症・髄膜炎、骨髄炎、細菌性肺炎、細菌性腸炎、尿路感染症などが含まれる
- 重篤な状態に陥る可能性があり、**抗生剤治療が必要**
- 新生児では12～32%が重症細菌感染症
- 3～36ヶ月では細菌感染症は10%未満

乳幼児の重症細菌感染症

- 菌血症・髄膜炎、骨髄炎、細菌性肺炎、細菌性腸炎、尿路感染症などが含まれる
- 重篤な状態に陥る可能性があり、**抗生剤治療が必要**
- 新生児では12～32%が重症細菌感染症
- 3～36ヶ月では細菌感染症は10%未満

乳幼児の重症細菌感染症

- 菌血症・髄膜炎、骨髄炎、細菌性肺炎、細菌性腸炎、尿路感染症などが含まれる
- 重篤な状態に陥る可能性があり、**抗生剤治療が必要**

•
•
3ヶ月未満の発熱は
救急受診を

うつ熱

- 赤ちゃんは体温中枢が未熟なため、環境温によって容易に体温が変動します
- 部屋の温度、服の着せすぎ、布団の掛け過ぎなどで、体温が容易に上昇します
- 涼しくしてから測ってください

1か月 男児

【病歴】

1月15日、39.5°C

機嫌が悪く、哺乳量も減り、急病センター受診

【身体の見所】活気あり(強く啼泣)

診察上、その他の異常もなし

経過

- 1ヶ月、発熱
 - 二次救急病院に紹介 (3ヶ月未満)
- 尿検査
 - 尿路感染症
 - 入院2週間

小児の尿路感染症

- 発熱は上部尿路感染(腎盂腎炎、細菌性腎炎など)
- 男性1-2%、女性3-8%、乳幼児では男児が多い
- 先天性腎尿路奇形の合併が多い
- しばしば全身の状態が重篤となる

細菌性髄膜炎

- 5歳以下が多く、2/3は1歳以下
- 重篤で、予後不良な場合が多い
- 約15%に難聴、てんかん、知的障害などの後遺症
- 発熱以外の症状は、哺乳不良など

注意が必要な発熱

①重症細菌感染症

②全身の状態が悪い発熱

③長引く発熱

長引く発熱

- 4-5日以上続く発熱は要注意
- 川崎病（診断：5日以上の発熱、発疹、唇・咽が赤い、手足の腫れ、頸のリンパ節の腫れ、充血のうち5/6項目、心臓の合併症がある）
- さらに続く場合、自己免疫疾患、自己炎症性疾患、悪性疾患などの可能性

長引く発熱

- 4-5日以上続く発熱は要注意
- 川崎病（診断：5日以上発熱、発疹、唇・咽が赤い、手足の腫れ、頸のリンパ節の腫れ、充血のうち5/6項目、心臓の合併症がある）

- 4-5日以上続いたら
受診を

普段と違う息

緊急処置が必要なもの (呼吸器疾患)

気管支喘息

息が吐きにくい、ヒュー-ヒュー、

喉頭蓋炎

息が吸いにくい、よだれが出ている

喉頭炎(クループ)

息が吸いにくい、犬が吠えるような咳

アナフィラキシー

他に発疹

気道異物

疑う経過

処置が必要なもの

気管支喘息	息が吐きにくい、ヒュー-ヒュー、
喉頭蓋炎	息が吸いにくい、よだれが出ている
喉頭炎(クループ)	息が吸いにくい、犬が吠えるような咳
アナフィラキシー	他に発疹
気道異物	疑う経過

息が苦しそうだったら、救急受診を

腹痛・嘔吐・下痢

腹痛・嘔吐・下痢を示す疾患

- 感染性胃腸炎
- 便秘
- 腸重積
- 鼠径ヘルニア嵌頓
- 虫垂炎
- 精巣捻転
-
- 咳き込み嘔吐

感染性胃腸炎

- ウイルス性： ロタ、ノロ、アデノなど
- 細菌性： カンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌など
- ウイルス性は冬から春、細菌性は夏に多い
- 細菌性は血便を伴うことが多い
- 喫食歴、周囲の流行状況などが参考になる

要注意な時

- 24時間以上、嘔吐が続く
- 吐血・下血
- 胆汁性嘔吐
- 急激に腹部が張ってくる
- 全身の状態が悪い時

救急受診を

けいれん・意識障害

けいれん・意識障害を呈する疾患

- 熱性けいれん
- てんかん
- 脳血管異常(脳梗塞・脳出血)
- 脳炎・脳症、髄膜炎
- 外傷
- 過剰服薬
- 心因性

熱性けいれん

- 発熱にともなって乳幼児に生じるけいれん・意識障害
(その他の原因があるものは除く)
- 好発年齢1-5歳
- 日本人の7-8% 珍しくない
- 予後良好、後遺症はない

1歳 男児

【現病歴】1月3日21時から発熱

4日午前1時12分に手足がガクガク(全身性間代性けいれん)しており、救急要請

1時17分救急隊到着時 がくがくは止まっていた

1時25分に急病センター到着

【既往歴】なし

【身体所見】視線が合い、人見知りで啼泣＝意識がはっきりしている

経過

- 5分けいれん、その後はいつもどおりの反応

- 熱性けいれん

- 意識清明、帰宅可能

経過

- 5分けいれん、その後はいつもどおりの反応

→ 熱性けいれん

→ **意識清明、帰宅可能**

普段通り
かわからない
場合も

意識がはっきりしているか
医療機関で確認

小児の意識障害の評価 (乳幼児のJCS)

Ⅲ 刺激をしても覚醒しない状態

300 痛み刺激にまったく反応しない

200 痛み刺激で少し手足を動かしたり, 顔をしかめる

100 痛み刺激に対し, 払いのけるような動作をする

Ⅱ 刺激をすると覚醒する状態

30 呼びかけをくりかえすと, 辛うじて開眼する

20 呼びかけると開眼して眼を向ける

10 飲み物を見せると飲もうとする

I 刺激をしなくても覚醒している状態

3 母親と視線が合わない

2 あやしても笑わないが, 視線は合う

1 あやすと笑う、ただし不十分で, 声を出して笑わない

小児の意識障害の評価 (乳幼児のJCS)

何となくいつもと違う
「なんか変」

と感じたら受診を

全身の状態が悪い時

小児評価トライアングル

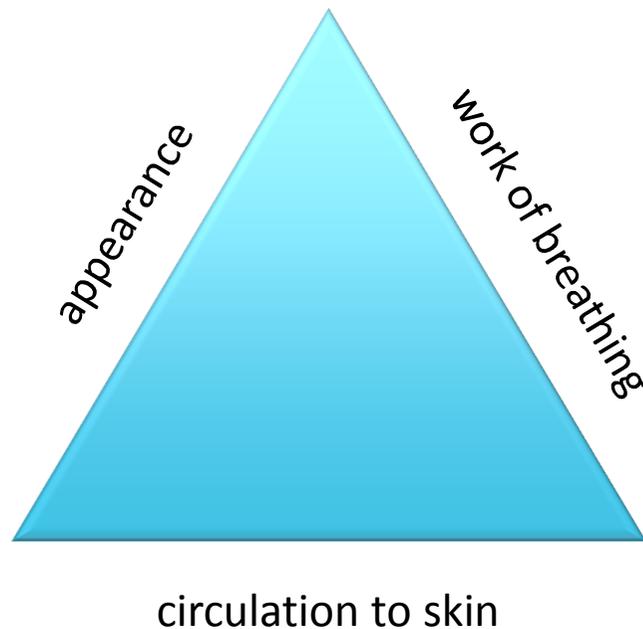
Pediatric Assessment Triangle (PAT)

医療現場でのトリアージに使用

小児評価トライアングル

Pediatric Assessment Triangle (PAT)

医療現場でのトリアージに使用



A: **a**ppearance (外観)

ぐったりしていないか？

遊んでいるか？機嫌

視線、周囲への反応

B: work of **b**reathing (呼吸)

多呼吸、徐呼吸、無呼吸など

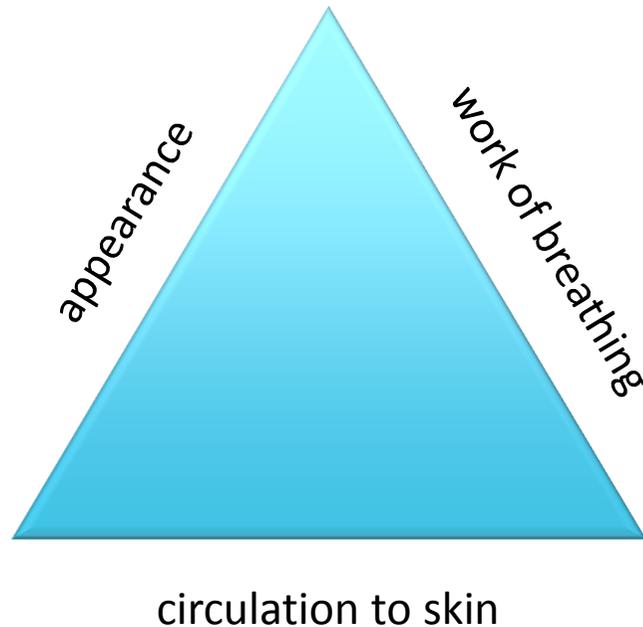
C: **c**irculation to skin (循環)

顔色、唇の色、爪床色など

小児評価トライアングル

Pediatric Assessment Triangle (PAT)

医療現場でのトリアージに使用



見た目

A: **a**ppearance (外観)

ぐったりしていないか？

遊んでいるか？機嫌

視線、周囲への反応

B: work of **b**reathing (呼吸)

多呼吸、徐呼吸、無呼吸など

C: **c**irculation to skin (循環)

顔色、唇の色、爪床色など

小児評価トライアングル

Pediatric Assessment Triangle (PAT)

ぐったりしてたら

視線が合わなかったら

反応が薄かったら

息がおかしかったら

色がおかしかったら

来てね！



参考文献: 小児内科. Vol.44. 2012